

軽井沢アフター～ごと
しの小咄～

かず軍曹

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

『二人の軽井沢』俺の後日談。

第1話

目次

1

第1話

あのくしのぶさん。

弱々しい後藤の問いかけ。

しのぶは聞こえているのか、仕事に集中しているのか分からないが返事をしない。

再び

あのくしのぶさん。

ぱたん。

読んでいたファイルを閉じ、立ち上がりながら、きびすを返す。

流れるような動作、無駄も隙もない。

何ですか、後藤警部補。

表情は険しく、口調も事務的だ。

それから、勤務中は『さん』ではなく階級をつけて呼んで下さい。『南雲警部補』って。

え、今更。

面倒臭そうに頭をかきながら、つぶやく後藤。

今更じゃなくて『親しい仲にも礼儀あり』でしょう。それに……。

最初は毅然とした口調のしのぶ。後半、何かを思い出したように、はにかみながら呟く。

それに？

後藤はオウムのように小首を傾げながら返す。

それに・・・

言葉に詰まるしのぶ。段々と赤面していく。

しばらくの静寂の後

ああ、あの日のことか。

後藤は思い出した。研修終わりに帰るに帰れなくなった状況で、成り行きでラブホで一夜を過ごした日のこと。

後藤は辺りを見回し、誰もいないことを確認しつつも、小声でしのぶの耳元でつぶやいた。

俺、何にもしてないし。気にもしてないよ。

赤面しながらも、きつとした表情で後藤に言い返す。

あなたは、そうかも知れないけど、私は・・・。

私は？

今度は、いたずらっ子っぽい表情で後藤が聞き返す。

たのし、じゃなくて、恥ずかしかったの！

後藤の目には、ほっぺたをプックリと膨らませながら、言い切ったように見えた。そう、恥ずかしかったの。

後藤の表情が段々とにやけていく。

だから、馴れ馴れしく私に言い寄ってこないで！

しのぶは、左手を腰に当て、右手人差し指をピツと後藤の鼻先を差しながら言い切った。

はいはい、わかりました。後藤警部補は今後、南雲警部補に馴れ馴れしく言い寄りません。

後藤は姿勢を直し、しのぶに対して敬礼をした。しかし、口角はヒクヒクと小刻みに震えている。

分かっていただいて安心しました。以降、その調子でお願いします。

しのぶは、安心した表情で踵を返し、椅子に腰掛け、読みかけのファイルを開いた。ああ、誘いそびれちゃった。

後藤は、残念そうにその場を後にした。

ポーン。

しのぶのPCから通知音が鳴った。

あら、何かしら。

後藤喜一さんからメッセージ

・・・削除つと♥

シユタツ。

しのぶは、後藤からのメッセージを開く前に削除した。

南雲警部補。

目の前にファイルケースを抱えた進士が立っていた。

何かしら、進士巡査。

課長報告用のプレゼンをまとめていたしのぶは手を休めた。

後藤隊長から、取り扱い注意の回覧文書を預かってきました。

ご苦労様、ありがとう。

しのぶは進士が自分の視界から消えてから、いかにも、という感じの赤いファイルケースを開けて中を確認する。

目の前に座っているのに。また、何を企んで・・・

紙が1枚出てきた。こう書いてある。

俺の話聞いてちょうだい。

しのぶは、表情を変えることなく、後藤からのメモをシユレッダーに掛けた。